

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ふくらFriendsすずめの宮				公表日	2026年3月30日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		広いスペースを活かせるように必要以上に物を置かない、片付けるなどし環境を整えている。/全員で同じ場所で過ごせるようにしている。/お部屋が2つあるため、利用人数によって分かれることが出来、広々とスペースを使っていただけの仕様になっている。一人一人独立したベッドではなく、複数人が一緒に寝転がれる、広々としたマットや絨毯で過ごしている。自由に身体を動かすことができ、お子さんもリラックスした表情で過ごされている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		体調等心配があるお子様はケアが適切に行き渡るよう看護師中心の療育配置にする/看護師が複数名おり、吸引等医療的ケアを十分に行うことが出来ている。どこからでも見える位置にお子さんが寝転がるスペースがあるため、必ず人の目が届くようになっている。スタッフの人数が少ない時には、系列の他事業所からスタッフが手伝いにくるよう連携を図っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		スロープや座位保持いすがある。/手話や絵カードでコミュニケーションをはかり、お子さんにストレスが無いよう関わっている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		子供達が好きそうな音楽を流すことができたり、クッションエリアがあり生活環境が整っていると思う。/時間が空いたら清掃、消毒を行っている/お子さんが帰宅した後は必ず毎日リストに沿って掃除を行っている。おもちゃは使うたびに電解水で拭き上げをしている。バギーは邪魔にならない位置に整列し、歩行練習の際にもぶつからないよう配慮している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		意思表示ができる子は自由に移動して遊ぶことができる。/お子さんによっては、一人の空間にいた方が落ち着く時があったりするので、衝立であったり、ハンモックであったり、落ち着ける環境を提供している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1	改善点がある場合にはスタッフ間で話し合い検討している。	ミーティングは月に一回設けているが、基礎的なところの共有に留まっている。目標や振り返りについて、もっと職員間で話し合いをし、みんなで一丸となり取り組んでいけると良い。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	アンケートを実施して意向などを把握し業務改善に努めている。	まだ開所して間もないため、評価表に関して把握出来ていない。今後評価表頂いたら改善に繋げたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		スタッフ間でのミーティングが定期的であり話し合いの場がある。/困ったことや疑問点は部長やリーダーに報告、連絡、相談/管理職は、普段から職員の意見をいつでもきける体制をとっており、業務改善が行いやすい環境である。お子さんが過ごしやすい環境を常に職員間で話し合っている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3		開所間もないため、まだ外部評価を把握していない。今後確認していく。	

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		定期的に療育や医療ケアなどについて勉強会があり知識を深めることができる。/毎月会社で勉強会があり、内部だけでなく、外部の講師の方が講義をして下さるため、大変勉強になり、臨床にいきている。外部の勉強会へも、希望すれば受講機会は頂けるため、自己研鑽しやすい環境である。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		個々の特徴に合わせて作成されていると思う。/支援プログラムを他職種個々の目線で見直しし、意見を部長に伝えていく。/ホームページ上に掲載されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		子供や保護者の意向に合わせて、子供の特徴を踏まえた支援計画が立案されている。/契約時に、お子さん、家族がそれぞれの願いを聴取し、それののっとりて計画書を作成しサービスを行っている。また、定期的な面談で目標の再確認を行い、都度目標を更新している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		毎月のミーティングで共通理解で話し合いをしている/月に一度のミーティングにて話し合い、共有をしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		支援計画に沿った支援ができるよう努めている。/計画書は全職員が目を通せる場所に保存されており、適宜確認しながら支援に入れるようになっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	2		ツールを使用しているがアセスメントができていないか把握できていない。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		包括的な支援が行えるよう計画をたてている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		スタッフ間で協力して活動内容を立案している。/月ごとに担当スタッフを2名ずつ決め、あらゆる職種の意見が反映されるようにしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		季節の行事を盛り込むなど工夫するように心がけている。/他職種で、感じている事等話し、意見交換/季節の行事を行ったり、カフェのような空間をいかして料理をしたり、外出をしたりと工夫をしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		それぞれのお子さんの得意や興味、心地の良い感覚が違うため、活動を通して評価し、職種間で共有し、活動内容を再更新している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1	朝の会の時にその日の活動内容や確認事項についてみんなで確認している。/目の届くところに今日の活動を記載し、どんな内容か共有してから活動を行っている。「あさのかい」ではお子さんにもなにかをするかお話をし、見通しが立てられるようにしている。	連携はできているが話せていない日もある
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	2	話し合いは行っている。しかし、毎日行うとは決めていなかったため、今後は時間を設け、より良い支援に繋げたい。	なかなかそういった時間を取ることが難しい
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		連絡帳に活動内容や子供の様子を記入している。/連絡帳へ利用中の様子を詳細に記載し、振り返りが出来るよう残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		スタッフと子供の担当相談員と定期的にモニタリングを行って支援計画を確認している。/担当者に判断を委ねている部分があるため、職種間で意見を出せるよう協力体制を作っていけると良い	

適切な支援の提供

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		子供に接しているスタッフが参加している。/ 常日頃お子さんについて職種間で共有し、会議の際、情報の抜けや漏れは無いようにしている。		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		各機関に共有が必要な際は書面でお伝えさせて頂いたり、直接お話をさせて頂く等、お子さんを包括的にサポート出来るよう取り組んでいる。		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2	移行にいった方はまだいらっしやらないので、今後そのような方がいた場合、情報の共有を適切に行っていく。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2	まだ移行した方がいないため、学校との連携の取り方を確認していく。		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		4		まだ交流がないため、今後図っていききたい。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4		今後地域との交流も図っていききたい。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		保護者にその日の様子を伝えたりコミュニケーションを取っている。/ご家族様に余計なストレスを与えてしまわないよう、活動の中で楽しそうにしていたところをメインにお話をするようにしている。その中で、すぐにお伝えした方が良さそうな事柄は共有し、今後の方向性についてお話するようにしている。		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3	系列の事業所では、茶話会をひらいたり取り組みをしている。ご家族様の希望を把握し、必要であれば行っていききたい。		
	保	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時やその都度質問があった際には丁寧に説明を行なっている。/契約時に説明担当者からお話をさせて頂き、利用後も不明点あれば都度説明させて頂いている。	
		36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		ご家族の思いに寄り添い一緒に考える/お子さんやご家族のねがい、家庭の目標を聴取し、利用後満足して通って頂けるよう取り組んでいる。	
		37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		面談を行い計画書の内容説明を行っている。	
38		定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		各職種がそれぞれ相談にのれる環境を作るよう配慮をしている。担当外のご相談であれば迅速に情報共有し、保護者に繋げている。		
39		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	3		まだ取り組んでいないため、今後実施していききたい	

護者への説明等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		不安に感じ心配されたりがないようにすぐに対応できるようにする/即日確認が必要なことに関しては社内SNSを活用し、後日確認で良いことは情報共有ノートを利用したりと、必ず記録を残すようにし、情報の漏れが無く、迅速に対応出来るようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		HPやインスタを利用し子供たちの様子を発信している。/広報なので、発信は意識している/季節ごとに通信を画面にてお渡ししている。HPやSNSには定期的に行事の写真を掲載しており、載せきらなかった写真は定期的にまとめてお渡ししている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報が記載されている書類は、外部に持ち出さないよう徹底している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		日々コミュニケーションをとり信頼関係構築に努めている。/お子さんやご家族の表情をみて、普段と変わりがないか察知すると共に、常日傾話をしやすい雰囲気を作るよう心がけている。保育や療育についての勉強会が定期的に社内実施されている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3		今後交流をしていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	2	マニュアルは全職員がすぐに目を通せる場所に置かれている。各委員会を中心に周知しているが、訓練は行ってないため今後行っていきたい。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	1	社内の勉強会にて、訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		発作時の動画を保護者から見せてもらい、症状を確認するようにしている。/情報の聞き取りシートを活用し、効き漏れがないように徹底している。ケアの方法や緊急時の対応等の情報は個別にまとめすぐに確認できる場所においている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		実績版等にわかりやすく目に入るよう表示したり、誰が支援に入ってもわかる様にしている。/契約時にアレルギーの聴取を行い、頂いた指示書と相違ないか確認をとっている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		勉強会という形で研修があり、安全対策について職員に周知されている。話し合う場や訓練がより頻度を多くできると良い	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		BCPに関して、契約時に説明をし書類のお渡しをしている。職員も入職時研修があり、その後定期的に研修はあるが、保護者の方に対しても、安全計画についてお話しする機会が定期的にあると良い。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		インシデントがあった際には再発防止に向けスタッフ間でミーティングを行い対策を考えている。/重大インシデントやアクシデントに繋がらないよう、報告をあげるようにしている。必要に応じてミーティングを実施し、再発予防に取り組んでいる。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	1	理念も含め、虐待に繋がらないよう研修や周知が徹底されている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		現時点で身体拘束に至る事案は無いが、今後行うような場合は本当に適切なのか、代案は無いか慎重に検討していく。		